



県内主要産業の動向

2019年1・2月

◎順調 ○まずまず ◐やや低調 ●不調

業種	景況			コメント
	18年12月	19年1月	先行き	
金属洋食器	●	●	→	受注は低調に推移。「ふるさと納税」返礼品生産のピークを越え、個人向けの動きは鈍い。業務用もホテルやレストラン等からの受注が伸び悩み。一方、2月にドイツで開催された大規模な見本市では、出展企業の製品の注目度は高く、EU等のディーラーから引き合いを受ける企業もあった模様。
金属 ハウスウェア	●	●	→	受注は引き続き低調で、特に業務用の動きが鈍い。一方、家庭用では機能性やデザイン性の高い製品に動きがみられる。国内・海外で開催された見本市は盛況。外注工賃や材料費が値上がりしており、一部の製品では価格の見直しが進められている模様。
作業工具	◐	◐	→	国内販売は、春先の需要期を前に一服感。建築関連工具は堅調な動きをみせているが、中国製品の流入などもあり一部で失速感も出ている。輸出も、東南アジア各国の旧正月の影響もあり大幅に減少。鋼材価格高止まりなどコスト上昇が続き販売価格の見直しを検討する企業も。
電子部品 ・デバイス	◐	◐	→	受注は弱含み基調。半導体製造装置向けは、中国を中心とした海外需要が落ち込んでいる。携帯端末向けは、スマホの販売不振により下押し圧力が続く。一方、自動車搭載用は、用途により明暗が分かれる。海外経済の減速懸念から、先行きの見通しを慎重にみる向きが多い。
鋳物	○	○	↘	受注は総じて横這い。東京五輪や災害復興に伴う建設需要は堅調。中国向けは機械関連・自動車関連・半導体関連で動きが鈍いが、国内向けの投資需要は安定しており、相応の受注残は確保している。足下では、労務費上昇が続くが、一服感もあり価格転嫁の交渉は難しい局面に。
金型	○	○	↘	受注は総じて横這い。ビル向け建築金物は引き続き堅調なものの、自動車関連は海外需要の冷え込みなどで足踏み状態が続く。暖房機器はピークアウト気味。先行きは、世界経済の減速による受注鈍化と人手不足によるコスト上昇により、収益圧迫を懸念する声強い。
一般機械	○	○	→	内需は、航空機・金属素材が好調を維持するとともに、消費税率引き上げを睨んだ中小事業者からの引き合いもみられる。外需は、引き続き米国向け航空機・宇宙関連が好調。中国については、米中交渉の進展を慎重に見守っていくが、現状程度が底との見方も聞かれる。



業種	景況			コメント
	18年12月	19年1月	先行き	
絹織物	●	●	→	十日町産地の1月の生産高は前年を若干下回ったが、この間に京都・東京で開催された商談会では例年並みの集客・受注を確保。先行き横這いの見込み。五泉産地の1月の生産高は前年比微増。白生地の特性を活かした赤ちゃん用商品を開発するなど新たな市場開拓に努める企業もみられる。
合織織物	●	●	→	春物生産期。店頭では暖冬でコートなどの重衣料が伸びず、在庫は過剰気味で追加受注は期待薄。生産面では、定番原材料であるポリエステルが原油高で高止まりし、一部で入手困難による影響も聞かれた。足下では、秋物の見本製作と受注が始まったが、出だしは鈍い。
ニット	●	●	→	春物生産期。1月の店頭は初売りセールが不振。暖冬の影響から、コート類、セーターなどの動きが鈍く、受注は総じて伸び悩み。生産面では、原材料のウール、カシミアが世界的な供給不足から高値が続く、コスト上昇要因に。足下では、夏物展示会の時期だが、店頭の低迷が響きアパレルの反応は慎重。
木工家具	●	●	→	業務用では、百貨店関連を中心に相応の動きがあり大型受注もみられた。足下でも飲食店関連などで受注の動きが続く。家庭用では、大型製品の不振から小物類やアイデア製品に注力する動きもみられるが、売上規模は限定的。組合は県内や首都圏での例年の大型催事に参加し製品PRを図る。
清酒	●	●	→	1月の出荷量は、県内・県外向けとも前年を下回った。販路別では、飲食店向けが引き続き不振でスーパー向けも伸び悩んでいる。酒類別では、純米酒・本醸造酒・普通酒が不振。出荷が伸び悩む中、3月開催の「酒の陣」などのイベントを通じた需要喚起に期待する声が多い。
米菓	◐	◐	→	1月の売上は、前年をやや下回った。最需要期である年末年始の動きが鈍く、定番品が低調だった。足下は、年明け以降発売の新商品が堅調となり、前年並みの水準に持ち直しつつある。先行きは、原料米価格の高止まりや物流費の上昇が採算悪化の懸念材料に。
建設	◐	◐	→	公共工事は、予算発注の一巡により弱めの動き。発注者別では、県の土木部で取扱件数の減少がみられる。民間工事は、製造業を中心に底堅く推移。足下で医療・福祉にも動きがみられる。住宅建設は、消費税率引き上げを控えて、持家の着工が動き出している。
大型小売店	◐	◐	→	1月の売上は前年を上回った。少雪の効果により客足が伸び、初売りやクリアランスセールも下支えした。化粧品等の婦人雑貨と高級ブランドは好調、食品は即食商品が順調に伸びている。バレンタイン商戦は高額品が伸び、自分用の購入が定着との見方。